EPISODE 3 TRANSCRIPT - 日本語

皆さんこんにちは、ソーニャ・ポールです。日本の静岡県、静岡市を拠点としているShizuoka Speaksにようこそ。このシリーズでは、日本の言語教育界での皆さんの知らない所でどんなことが起きているのかについて、個人的な経験、教育的見方、他の文化について送りしていきます。

先週、英語と日本語の学び方と教え方について話合いをしました。 今日はどんなことについてでしょうか？ どこの国から来たかによって学ぶ方法にどのように影響するのかついて、探っていきます。

以前お話をうかがった、日本語と英語の先生の西貝先生と小林先生にもまた登場していただきます。

ソーニャ: 同じ授業でも、違う国出身の学生たちは、違う反応を示すことに気づかれましたか？

小林先生　:いい質問ですが、難しい質問ですね。私は…

小林先生　: はい、文化に基づいて全体的な傾向のようなものは確かにあります。 インドネシアの学生は、友達と独自のハーモニーのようなものを作り出します。 たぶん、宗教のためだと思います。ほとんどは、イスラム教徒です。 彼らは、互いを感じあうことができるというか …それは興味深いものだと思います。 そして、中国人は、私が考えていたよりそれぞれ独立していて、強い意見を持っている人もいると感じました。

西貝先生　: ベトナム人もね ...

小林先生　:ベトナム人も強い意見を持ってます？ うーん、それは事実ですが、面白いことに、たとえ強いとしても、独立している中国人のようでなくて、ベトナム人はグループの中にとどまろうとすると思いませんか？

ソーニャ:それから、出身国によって好きな活動も違うと言っていましたね。何か例がありますか？

西貝先生　:性格とか。例えばインドネシア人は歌うことが好きです。なんというか・・
小林先生　:どう言ったらいいんでしょう…生まれつきリズム感があるというか。リズムに乗ってダンスするとか、歌にあわせてダンスするとかが自然にできるんですよ。リズム感がとてもいいんです…でも中国人はリズム感がないですね、ベトナム人も、日本人もです…。

ソーニャ: 日本人の学生の学び方についてはどうですか？例えば、日本文化のある特定な事柄で、日本の生徒がある学び方をするとか、ある勉強方法をとりたがるなどはあると思いますか？

小林先生　:そうですね、東アジア人の多くは、文法がまったく間違っていても、気にせず話します。インドネシア人も、文法が少し間違がっていても話します。間違いを気にせず話つづけるんです。しかし、日本人の学生は、とてもシャイで、読み書きにもっと大切にしています。ですから、日本人がスキルを磨くためには、聞き取ったり、ディスカッションしたり と、 自分の 意見を述べる 機会 が必要です。それが今、日本の 生徒たちには欠けている点です。

でもどうしてでしょうか？日本の学生はどうしてそんなにおとなしいのですか？日本文化では静かなことが時に、話すよりも尊重されるからでしょうか？

小林先生　:ええ、どこかで、日本の農業について読んだことがあります。その記事の中では、たくさん収穫するために、グループで協力する必要があります。特定の時期に収穫し、たくさん収穫をするために、グループ内で一致調和して行わなければいけません。そのためにより団体指向の国民性になったのだと読みました。調和を維持しなければならないので、静かにしていなければならないようです。

うーん、グループ指向の文化。これが日本の生徒が静かであることと関わりがあるんでしょうか。他に何かあるんでしょうか？

もちろん、個人個人で個性は違い、そして、みんな違う勉強方法があります。しかし、研究によると、国籍で、全体的な傾向が見られるということも事実です。 そして、ある東アジアの国 — 例えば、強い儒教の伝統をもつ国々 — では、その国からの学生が「より静かである」か「より内気である」と思われるような個性を示す傾向があります。

ではこれを裏付けてみましょう。 儒教は、中国の哲学者の孔子がとなえた哲学で、倫理、道徳的、社会的、政治的な教えを含み、それは中国の伝統的な考え方に大いに影響を与えました。そして、中国は、この儒教の考えによって他の国に大きな影響を与えました－例えばベトナム、韓国、シンガポール、台湾、香港、マレーシア ... そして、日本です。

儒教で最も重要な教えの*1*つは、目上の人に対して尊敬を示すこと、恥をさらさないということです。 教育においては、これは先生に対して敬意を示すこととわかります。そして、生徒たちは間違いを恐がるので、思ったことを口にしたり、何かを試したりということをしたがりません。

アジアの生徒のイメージは、西洋では一般的ではありませんが物事をただ、まる暗記です。

では、他のアジアで学んでいるアジアの生徒はどうでしょう？ 例えばここ静岡市で日本語学校であることば学院で勉強する、アジアの学生 — ほとんどは東南アジアの出身である —生徒たちについて はどうでしょうか？

学校の校長である袴田先生にご意見を伺いました。

ソーニャ: 日本語を学ぶのに学生の出身国の背景と学習スタイルは、影響していると思われますか？

袴田先生: そうですね、 ある国では、学生は静かに座っていなければなりません。 そして、生徒の態度は、自動的に受け身になります…日本に来て、この学校に来てみると学習方法がかなり違います。 もちろん、先生は話して説明しま

す。また、基本的に、学生たちは自分自身で勉強しなければなりません。 もし質問がなければ答えを見つけることは出来ません。学生に積極的な態度をとって欲しいのです。

ソーニャ: 何人かの人にインタビューさせてもらいましたが、ちょうど私もその点が疑問に思ったところです。生徒達が自分の出身国ではレクチャーの方法で勉強していましたが、ここでは、自分の意見を述べたりクラスで話し合うことがあります。これは、この学校独自のものなのでしょうか。なぜならある日本の学校では先生が話すのを聞いて、その後で質問をする待つ方法の方が一般的だからです。それで、これがこの学校の特徴なんでしょうか、それとも日本の教え方なのでしょうか？

袴田: 日本のスタイルは、かつてはそんな感じでしたけれど、だんだん変わってきたように思います。それから、日本人も変わってきたと…わたし達は、なんていうのかしら、積極的であるとか、アクティブであることが得意ではないというか…でも私はアジア人ですから…受身で先生に何をするか言われた方が気楽とでもいうか、じっと座って、先生の話をじっくり聞く方が気楽で簡単なんですが、それもよくないし…最も重要なことは、自分の意見を持つこと、アジア人学生にとって、自分の意見を組み立てていくことはすごく重要なんです。彼らには自分で考えるという慣習が無いのです。最も重要なことは、彼らの思考方法を変えることなのです。

「自分の意見を組み立てる」ちょっと待ってください、これはスーザンが言っていた日本の公立学校でのこころの教育・発達 のことではないでしょうか？

スーザン:全員ではないけれど、ある生徒は自分の意見がないんです。生徒に「どう思う？」と聞いたら、「わからない」と答えるんです。でもそれが問題なんです。たぶん教育委員会はそれが問題だと考えているので、私達は生徒の気持ちや考えを育てていかなくてはならないんです。

つまり、アジアの学生のイメージである暗記する勉強方法は日本人は当てはまらないのかもしれません、日本はそのイメージをして**欲しくないのです。**そして、日本の学生だけでなく、他の学生のためにもそのイメージを変えようととても努力しています。

確かに、勉強のためには本当に記憶しなければならないときがあることを認めなければなりません。ーたとえば、漢字を例にとりましょう。 すべての漢字には、画数と書き順があります。漢字の意味を知るために、漢字を記憶しなければなりません。 ということは、暗記の学習スタイルでない国出身である学生は漢字の勉強はとても大変ということでしょうか

これは、答えるのが難しい質問です。袴田先生の経験から見てどうでしょう。答えは、残念なことに、イエスです。

袴田:　中国、韓国、台湾からの学生、そして、ミャンマーとベトナムは、大丈夫です ... インドの学生も一生懸命勉強するので大丈夫です。また、インド人ベストを尽くして漢字を勉強します。しかし、漢字をマスターするのはとても難しいです。ある国の学生たちは漢字がとても苦手です。 どんなに長く日本にいていたとしても、漢字が読めないのです。 また、漢字を書くことができません。聞き取り能力は非常に良いので、よくコミュニケーションをとることができます。

袴田先生の言葉が私の胸を打った気がしました。私自身も真剣に日本語を学んでいるわけではないので

日本語、または他の言語の勉強に何年も費やしたと想像してみてください。そして、あなたの先生、あるいは、校長先生が、その言語をマスターするのは不可能であることを打ち明けたとしたら、あなたはどう感じるでしょう？

それはひどいことです！でも袴田先生は、まだあきらめるなと言います...

袴田先生:　コミュニケーションのために最も大切なものは、言語そのものでありません。 最も重要なことは、学生たちの国でどのように生活していたか、どうして日本に来たのかを思い起こすことです ...留学生と私たちがどのようにお互いをつなぐこと、理解し合うこと...これが最も重要な事です。

コミュニケーションのために最も重要なものは、言語でありません。理解し合うです。

しかし、実際に理解し合っているのでしょうか？ここにやってきて日本語を学ぶ学生が、このことについてどのように思っているでしょうか。外人、日本人とのハーフで、若い時に外国から日本に来た生徒はどうでしょうか？彼らは日本の学校で生き残るため...コミュニケーションをとるため...そして自分とわかったもらい、そして相手を理解するために漢字と日本語をマスターしなければなりません。しかし、彼らはそれができるでしょうか？

次週では、それらの話題と他の話題についてお届け致します。袴田先生、 西貝先生、小林先生、経験に基づいてインタビューに答えてくださって、どうもありがとうございました。静岡スピークスは、私がソニア・ポールお届けいたしました。お聞きいただきましてありがとうございました。